



平成31年10月9日

# 第3回勇希の会

横浜市大センター病院 造血幹細胞移植 患者会 第3号

## 勇希の会

これから移植をする人や移植後の生活で困っている人の助けになりたい、役に立ちたいという思いから、勇希の会は設立されました。この場が困っていることや不安な気持ちを受け止める場所、話すことで気持ちが楽になれる場所になれば良いと思います。

勇希の会は、**勇**気を持って病気に立ち向かえば、**希**望は叶うという意味が込められています。



## 第3回勇希の会

佐々木副看護部長の挨拶から始まり、今回は鈴木美智子看護部長と元師長の白濱師長が来てくださいました。看護部長さんはおしゃべり会にも参加していただきました。患者さん9名、ご家族2名、運営スタッフ8名、病棟看護師2名が参加しました。



## 前半：斎藤敏雄さんの体験談

第3回目は、運営スタッフでもある、7年半前に骨髄バンクからの移植を経験した、斎藤さんの体験談を話していただきました。検査技師さんだったので、検査値やHLAについても知識があっただけに、知っているが故の不安があったと思います。移植のときは、何もする気が起きず、ただただ生きていたというネガティブな状態だったそうですが、娘さんのために生きなきゃ、娘さんを残して死ねないと思い、がんばれたと話していただきました。



今も移植の後遺症があり、免疫抑制剤を内服しているそうです。移植前の部署ではないけれど、仕事復帰もされていて、勇希の会以外でも、血液疾患患者さんへのいろいろな啓蒙活動をされています。

## 後半：おしゃべり会

2グループに分かれ、約1時間フリートークしました。話しのきっかけとして『モチベーションを保つために何をしていたか』というテーマから話し、どんどん話が広がりました。入院中辛かったこと、何を目標にして過ごしていたか、食べられた物、飲みやすかったものなど、移植の時のトラウマで未だに食べられないものなど人それぞれ違いましたが、みなさん退院したら何をしたい、何食べたいなどやりたいことを目標に過ごしていたようです。



## 第4回 勇希の会

2020年3月11日（水）13：00～15：00 本館4階会議室